

⑧ ごみしょりにたずさわっている人びとの気持ち

① 働いている人びとにはどんな願いや苦労があるのでしょうか

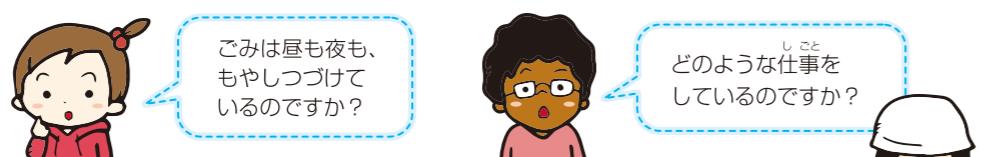
ごみの集め方やしょりについて学習してきたみんなは、働くいている人たちにインタビューしてみました。

働く人の話



ごみを集めている人の話

雨や風で天候が悪い日でも収集に行きます。ごみの中にガラスなどのきけんな物がまじっていてけがをすることがあります。また、使い切っていないスプレー缶がばくはつし、パッカー車が火事になったこともあります。「ごみを出すときのやくそく(P.14)」や「ごみを出すときに注意すること(P.15)」をきちんと守ってほしいと思います。



焼却工場で働く人の話

わたしの働いている工場では、24時間ごみをもやしつづけるために交代しながら、夜中も機械がうまく動いているか点検したり、ごみがちゃんとえてしまっているか見守ったりしています。

夜中の仕事にあたった時は、夕方に工場に入り、朝、家に帰ることになります。

うめ立て地で働く人の話

わたしは、うめたての仕事をしています。木かげなどがないので夏は暑いし、冬はつめたい海の風がふきつけます。ここでの仕事はたいへんですが、この夢洲が、人びとのくらしや仕事に役立つ土地になることを願ってがんばっています。

② みんなで考えてみよう

あつ ごみを集めている人の話

ごみを集めている時、パッカー車を見て、鼻をつまみ、「くさいな。早くむこうへ行けばいい。」と言われることがあります。

わたしたちはみんなが出したごみをしょりして、気持ちよくくらせるように、毎日ながせを流してがんばっています。それなのに、なぜこんなことを言われるのかと思うと、悲しい気持ちになります。

もしわたしたちがごみを集めて、しょりしないと、まちじゅうがごみだらけになってしまいます。子どももおとなも、みんなもう一度、よく考えてほしいと思います。

ごみを出しているのは、わたしたち全員です。わたしたちが健康で気持ちよくくらしていくうえで、ごみのしょりにたずさわる人たちの働きは、たいへん大きなものがあります。

人びとの環境とくらしを守る仕事や、そこで働く人たちに対する正しい考え方を持つことが、お互いが大切にされた明るい社会をつくるうえで、とても大切なことです。

ごみの問題は、毎日の生活と深いかかわりがあるので、学習したことでもとにおうちの人たちともよく話し合ってみましょう。

ごみをへらすために、できることや、考えたことを書きましょう。



調べ学習の手助けページ

● 大阪市環境局

ホームページ <http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/>



● 環境省

小冊子「まなびあいぶっく」

ホームページ http://www.env.go.jp/recycle/yoki/b_2_book/index.html

品目ごとのリサイクル

● アルミ缶のリサイクル

アルミ缶リサイクル協会「アルミ缶を知ろう」

ホームページ <http://www.alumi-can.or.jp/publics/index/31/>



● PETボトルのリサイクル

PETボトルリサイクル推進協議会「だいすきPETボトル」

ホームページ <http://www.petbottle-rec.gr.jp/>

● スチール缶のリサイクル

スチール缶リサイクル協会

ホームページ <http://steelcan.jp/>



● 紙パックのリサイクル

全国牛乳容器環境協議会「牛乳パックン探検隊」

ホームページ <http://packun.jp/>

● プラスチック製容器包装のリサイクル

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

ホームページ <http://www.pprc.gr.jp/>



たい肥づくりもりサイクル

たい肥とは、落ち葉や草花などが生物によって完全に分解されて作られるもので、植物などを育てるときに使われる肥料のひとつです。落ち葉などからたい肥を作ることができ、「緑のカーテン」や「緑のカーペット」として使われた植物をたい肥にする取り組みもされています。

たい肥づくりもりサイクルとなります。たとえば、落ち葉などから作られたたい肥を使ってまた新しく植物を育てることができます。天王寺動物園では、草食動物のふんからたい肥をつくる工夫をしています。

